



2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社ツナググループ・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6551 URL https://tghd.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米田 光宏
 問合せ先責任者 (役職名) 財務戦略室室長 (氏名) 沼畑 正輝 (TEL) 03-3569-2790
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA※		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	11,188	19.7	387	129.8	624	51.5	396	141.8	254	94.2
2022年9月期第3四半期	9,347	11.4	168	—	412	206.2	163	—	131	—

(注) 包括利益 2023年9月期第3四半期 252百万円(112.9%) 2022年9月期第3四半期 118百万円(—%)
 ※調整後EBITDA(営業利益+減価償却費及びのれん償却費)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	29.80	29.35
2022年9月期第3四半期	15.41	15.19

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	4,810	1,747	34.2
2022年9月期	5,209	1,536	27.5

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 1,646百万円 2022年9月期 1,433百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期	14,700	15.5	400	85.6	710	30.5	400	87.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期3Q	8,575,622株	2022年9月期	8,540,192株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	14,291株	2022年9月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期3Q	8,550,097株	2022年9月期3Q	8,514,653株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来予測情報の適切な利用に関する説明）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手している情報に基づき当社が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による社会活動における制限は緩和され、緩やかながらも景気回復の動きが続いています。国内の雇用情勢につきましては、引き続きインバウンドを含む飲食業・小売業などでにぎわいが戻りつつあることに加え、働き方改革関連法による物流業界のドライバーの残業規制などが予定されており、今後も人手不足が継続することが予想されます。また、2023年5月の有効求人倍率は1.31倍（季節調整値）と前年同時期から0.06ポイント上昇しています。雇用者数もこのところ持ち直しの動きがみられ、新規求人数も前年同時期からおよそ1割上昇しております。

このような環境のもと、当社グループは飲食業・小売業・物流業へのサービス提供に注力し売上高は高成長を維持しており、前年同期比で19.7%の増収となりました。

費用面においては、この成長基調を維持・拡大させるために、営業支援・労務支援のシステム投資や教育研修費を前年同期比約2倍にするなど人的資本への投資を積極的に進めております。加えて、業務の繁閑差に対応するため、固定の人員ではなく派遣・業務委託といった外注を活用することで変動費化を推進し外注費が上昇しました。一方で人件費等はほぼ横ばいでの推移となりました。また、売上高の成長に伴い、原価及び広告費（求職者集客費）、販売促進費（代理店販売委託費）などの変動費が引き続き増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高11,188百万円（前年同期比19.7%増）、営業利益387百万円（前年同期比129.8%増）、経常利益396百万円（前年同期比141.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益254百万円（前年同期比94.2%増）、営業利益よりのれん及び減価償却費影響を除いた調整後EBITDAでは624百万円（前年同期比51.5%増）となりました。

当社グループの各セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(ヒューマンキャピタル事業)

ヒューマンキャピタル事業におきましては、企業の採用活動を総合的に支援する「RPOサービス領域」、ITテクノロジーを駆使した人材マッチングサービスを提供する「DXリクルーティング領域」、シニア・主婦・あるいは短期単発といった求職者のニーズに対して様々な求人メディアサービスを提供する「セグメントメディア領域」などがあります。

RPOサービス領域では、第2四半期に引き続き、人流回復・インバウンド需要増等で市況が回復している飲食業・小売業の大手企業を中心に採用意欲が高い状態が続き、求人倍率が上昇する中で、最適な集客手法・プロセスの提案を推し進め、売上高が前年同期比でおよそ2割の増加となりました。

DXリクルーティング領域では、ビッグデータとアドテクノロジー（広告配信技術）を駆使したダイレクトリクルーティングサービス『Findin(ファインドイン)』を中心に、上記RPOサービス領域における集客手法の課題解決の一助となったこともあり、売上高が前年同期比でおよそ6割増加いたしました。

セグメントメディア領域では、上記DXリクルーティングを推し進めたこともあり、レギュラーワークメディアは横ばいとなりつつあるも、スポットワーク（デイワーク）メディアは、コンビニ事業者やデリバリー（宅配）事業者からのニーズ増加が続き、売上高が前年同期比でおよそ2割増加いたしました。

これらの結果、ヒューマンキャピタル事業における売上高は8,633百万円（前年同期比14.5%増）、営業利益は428百万円（前年同期比153.2%増）となりました。

(スタッフィング事業)

スタッフィング事業におきましては、人材派遣及び日々紹介をおこなう派遣・紹介領域、派遣スタッフの研修店舗を兼ねたコンビニ店舗を運営するコンビニ領域があります。

派遣・紹介領域につきましては、倉庫・物流系企業への派遣に注力し、売上の基盤づくりを行ってまいりました。加えて、人材紹介事業では派遣会社向けのサービスを開始し、新たな成長の柱づくりにも注力しております。この領域は昨年、株式会社LeafNxtを設立し事業化フェーズにあります。市場の後押しも受けて3月に引き続き、第3四半期単体で黒字化いたしました。

これらの結果、スタッフィング事業における売上高は2,789百万円（前年同期比48.5%増）、営業損失は25百万円（前年同期は13百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ399百万円減少し、4,810百万円となりました。これは主に売掛金が156百万円増加したことや、現金及び預金が341百万円、顧客関連資産が79百万円及び流動資産その他に含まれる未収還付消費税が71百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ610百万円減少し、3,062百万円となりました。これは主に流動負債その他に含まれる契約負債が221百万円増加したことや、長期借入金が452百万円、短期借入金が208百万円及び1年内返済予定の長期借入金が112百万円減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ210百万円増加し、1,747百万円となりました。これは主に利益剰余金が212百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、2023年5月15日に公表いたしました通期の業績見直しに変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,250,978	909,516
売掛金	1,198,572	1,354,667
商品	59,406	61,930
未収入金	351,992	355,796
その他	255,284	207,736
貸倒引当金	△2,346	△3,509
流動資産合計	3,113,889	2,886,137
固定資産		
有形固定資産	207,857	210,548
無形固定資産		
のれん	356,912	300,854
顧客関連資産	819,638	740,318
その他	424,552	398,093
無形固定資産合計	1,601,103	1,439,266
投資その他の資産		
その他	286,949	274,444
貸倒引当金	△350	△350
投資その他の資産合計	286,599	274,094
固定資産合計	2,095,560	1,923,909
資産合計	5,209,449	4,810,047

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	426,165	452,012
短期借入金	308,944	100,000
1年内返済予定の長期借入金	348,991	236,591
未払法人税等	174,307	79,497
賞与引当金	124,234	88,381
未払金	566,206	582,267
その他	349,290	586,406
流動負債合計	2,298,140	2,125,157
固定負債		
長期借入金	1,065,021	612,177
その他	309,763	325,500
固定負債合計	1,374,784	937,677
負債合計	3,672,925	3,062,834
純資産の部		
株主資本		
資本金	696,651	699,216
資本剰余金	604,770	607,335
利益剰余金	132,336	344,410
自己株式	-	△4,138
株主資本合計	1,433,758	1,646,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△40	△113
その他の包括利益累計額合計	△40	△113
非支配株主持分	102,806	100,502
純資産合計	1,536,524	1,747,212
負債純資産合計	5,209,449	4,810,047

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年6月30日)
売上高	9,347,259	11,188,837
売上原価	4,881,749	6,214,993
売上総利益	4,465,509	4,973,844
販売費及び一般管理費	4,296,906	4,586,320
営業利益	168,603	387,523
営業外収益		
受取利息及び配当金	524	125
受取手数料	2,739	4,867
違約金収入	1,310	4,750
倒産防止共済解約手当金	4,808	-
店舗閉鎖益	5,443	575
その他	1,245	4,951
営業外収益合計	16,070	15,270
営業外費用		
支払利息	8,823	4,951
支払手数料	11,307	759
その他	634	803
営業外費用合計	20,766	6,514
経常利益	163,907	396,280
特別利益		
固定資産売却益	-	15
投資有価証券売却益	-	2,680
特別利益合計	-	2,695
税金等調整前四半期純利益	163,907	398,975
法人税、住民税及び事業税	75,560	131,129
法人税等調整額	△30,146	15,374
法人税等合計	45,414	146,503
四半期純利益	118,492	252,471
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△12,721	△2,304
親会社株主に帰属する四半期純利益	131,214	254,775

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	118,492	252,471
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	42	△72
その他の包括利益合計	42	△72
四半期包括利益	118,535	252,399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	131,257	254,703
非支配株主に係る四半期包括利益	△12,721	△2,304

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフィング 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	7,503,163	1,837,623	9,340,787	6,472	9,347,259
外部顧客への売上高	7,503,163	1,837,623	9,340,787	6,472	9,347,259
セグメント間の内部 売上高又は振替高	35,386	40,931	76,317	△76,317	—
計	7,538,550	1,878,554	9,417,105	△69,845	9,347,259
セグメント利益又は損失(△)	169,137	△13,070	156,067	12,535	168,603

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額12,535千円は、セグメント間取引消去3,158千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の総額9,377千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフイング 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	8,441,297	2,744,525	11,185,823	3,014	11,188,837
外部顧客への売上高	8,441,297	2,744,525	11,185,823	3,014	11,188,837
セグメント間の内部 売上高又は振替高	191,981	45,455	237,437	△237,437	—
計	8,633,279	2,789,980	11,423,260	△234,422	11,188,837
セグメント利益又は損失(△)	428,306	△25,187	403,118	△15,594	387,523

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△15,594千円は、セグメント間取引消去2,077千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の総額△17,672千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、経営管理体制の見直しを行い、従来「スタッフイング事業」に含まれていたロジHR株式会社を「ヒューマンキャピタル事業」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。